

海況速報

平成 2 年度 第 6 号 (No.18)

平成 3 年 3 月 1 日

北海道立水産試験場

2 月中～下旬の海況

各海域とも12月に比べると大幅に降温しました。

【日本海海域】

今季、道北の宗谷海峡ではオホーツクの流水が流入したようですが、海峡西沖では、表面でマイナス水温域もみられました。前年に比べると、4℃前後と特に低くなっていました。しかし、この西側沖合域の中層（50、100m深）では逆に前年より3℃前後高めとなっていました。さらに、武蔵堆西沖合（ほぼ、北緯44～45度間）では冬季では珍しいと思われる暖水塊構造（200m：5℃、前年より約3℃高め）がみられました。

一方、茂津多岬付近の下層（100、200m深）では、沖合域からの冷水の接岸傾向が強い特徴がみられ、この沿岸部では前年より3℃以上低めとなっていました。また、道央の石狩湾沖では表面～200m深まで、前年より若干低めとなっていました。

道南の津軽海峡西口沖では100m深まで10℃前後を示しており、しかもその（相対的）暖水域は東経139度までの西沖まで広がっていました。従って、前年と比べると、沿岸では前年並でしたが、東経139度付近の東西域では表面～200m深まで前年よりかなり高めで、5～6℃も高めの地点もみられました。

なお、余市における沿岸水温は昨年秋以降、平年より2℃前後も高めに推移していましたが、2月中旬では平年比：-0.6℃となりました。

【太平洋海域】

道東沿岸域では、50m深までの表層はほぼ0～1℃台の低水温となりました。しかし、道東沖合域の北緯41度30分以南では7℃以上の暖水域が東西に広がり、一部は暖水塊構造を示していました。

一方、津軽海峡東口の南部では、8～9℃台の高水温を示していますが、胆振沿岸域では100m深まで2℃台で、日高沿岸域の表面では0℃台の低水温も示しており、明らかに（オホーツク海からの）冷水の影響を受けていると思われます。

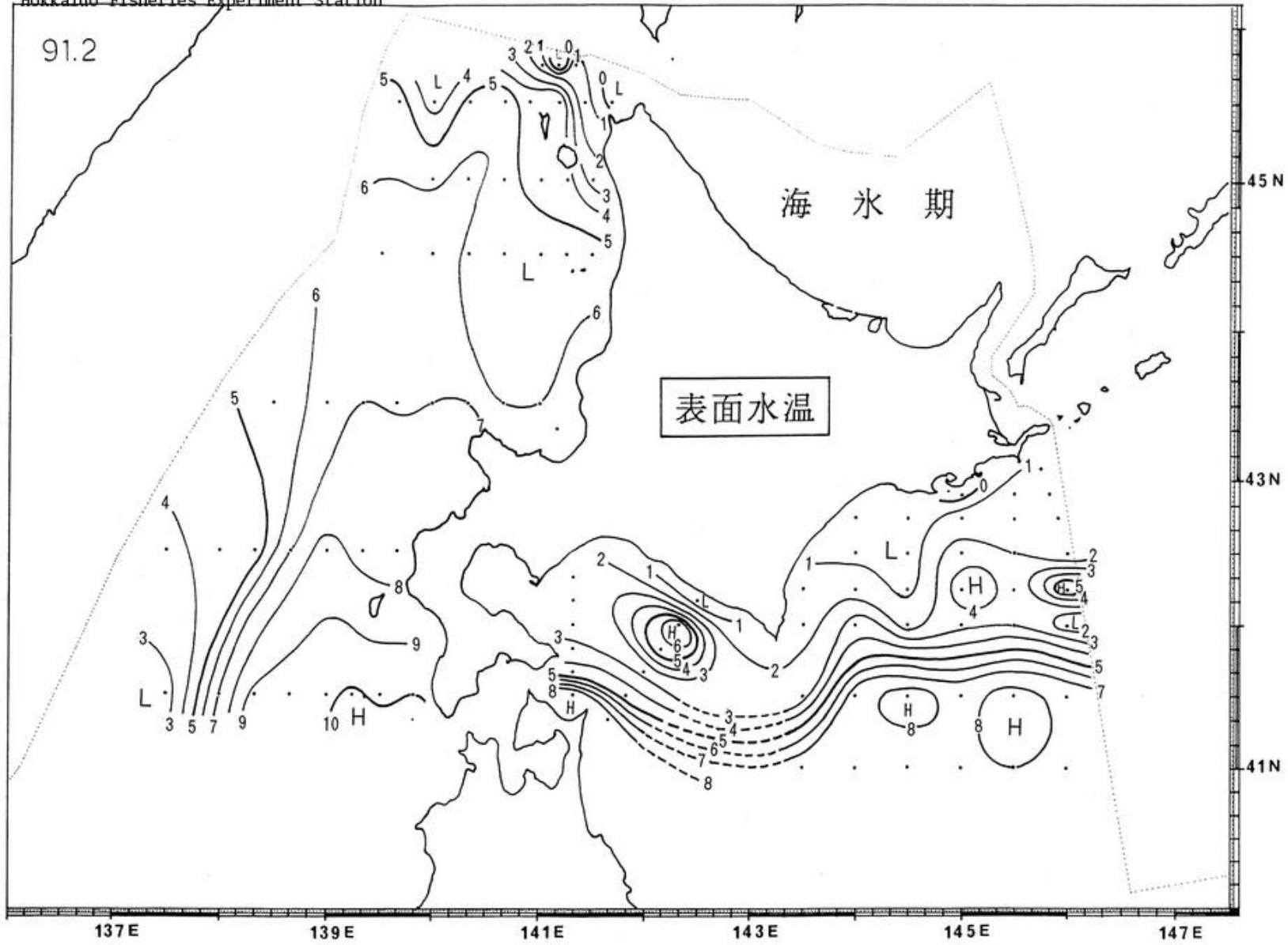
前年、調査の出来た北緯42度以北の道東沿岸域で水温を比べると、十勝沿岸部では全般に前年より高めでしたが、東側、特に東経146度線付近では前年よりかなり低め（2～4℃近く）となっていました。

資 料 [観測期間]

稚内水試（北洋丸）	2.18 - 20（道北日本海域）
釧路水試（北辰丸）	2.19 - 26（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	2.19 - 20（道南太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	2.19 - 21（道央～道南日本海海域）

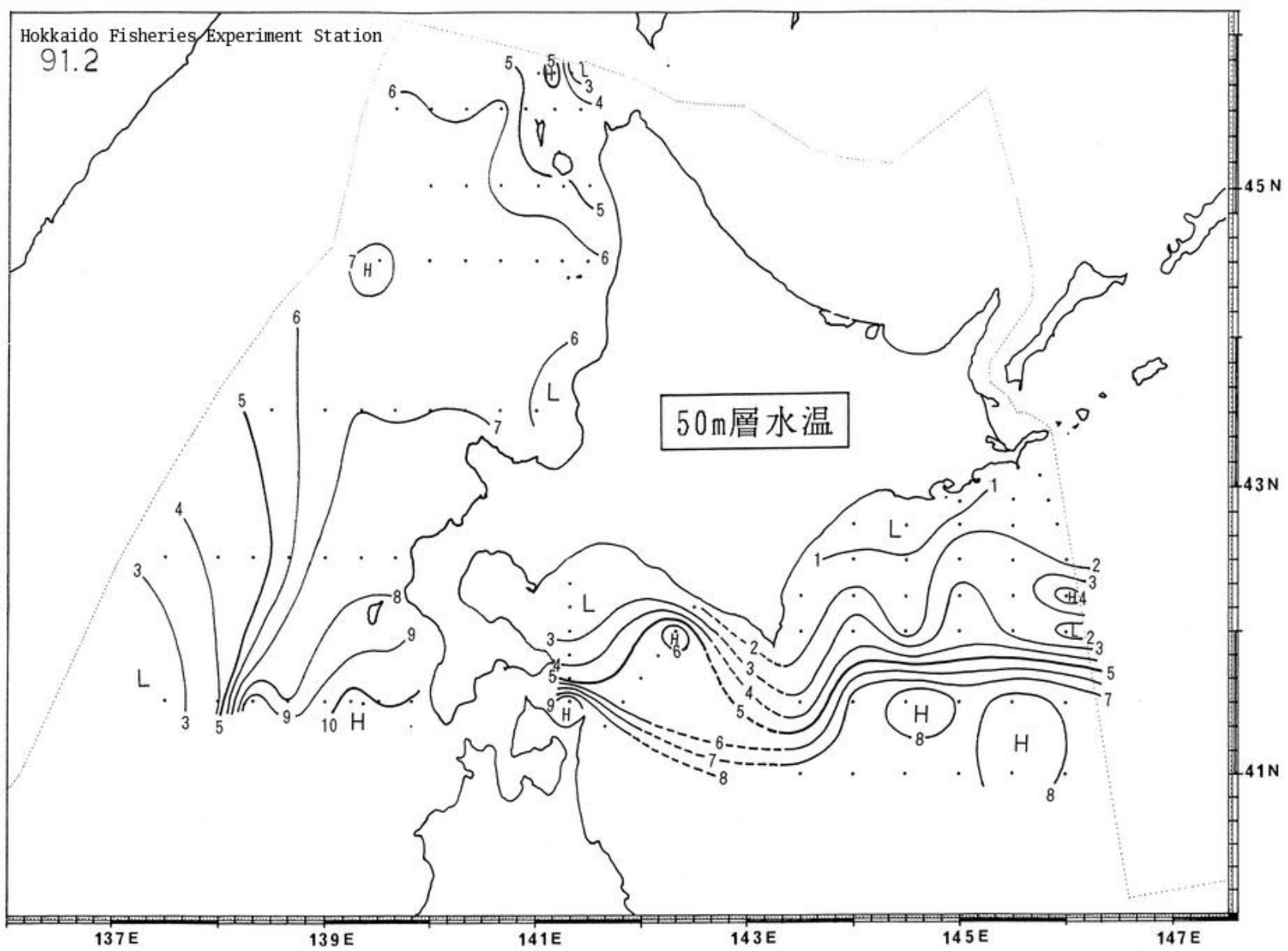
（中央水試 海洋部）

91.2



Hokkaido Fisheries Experiment Station
91.2

50m層水温

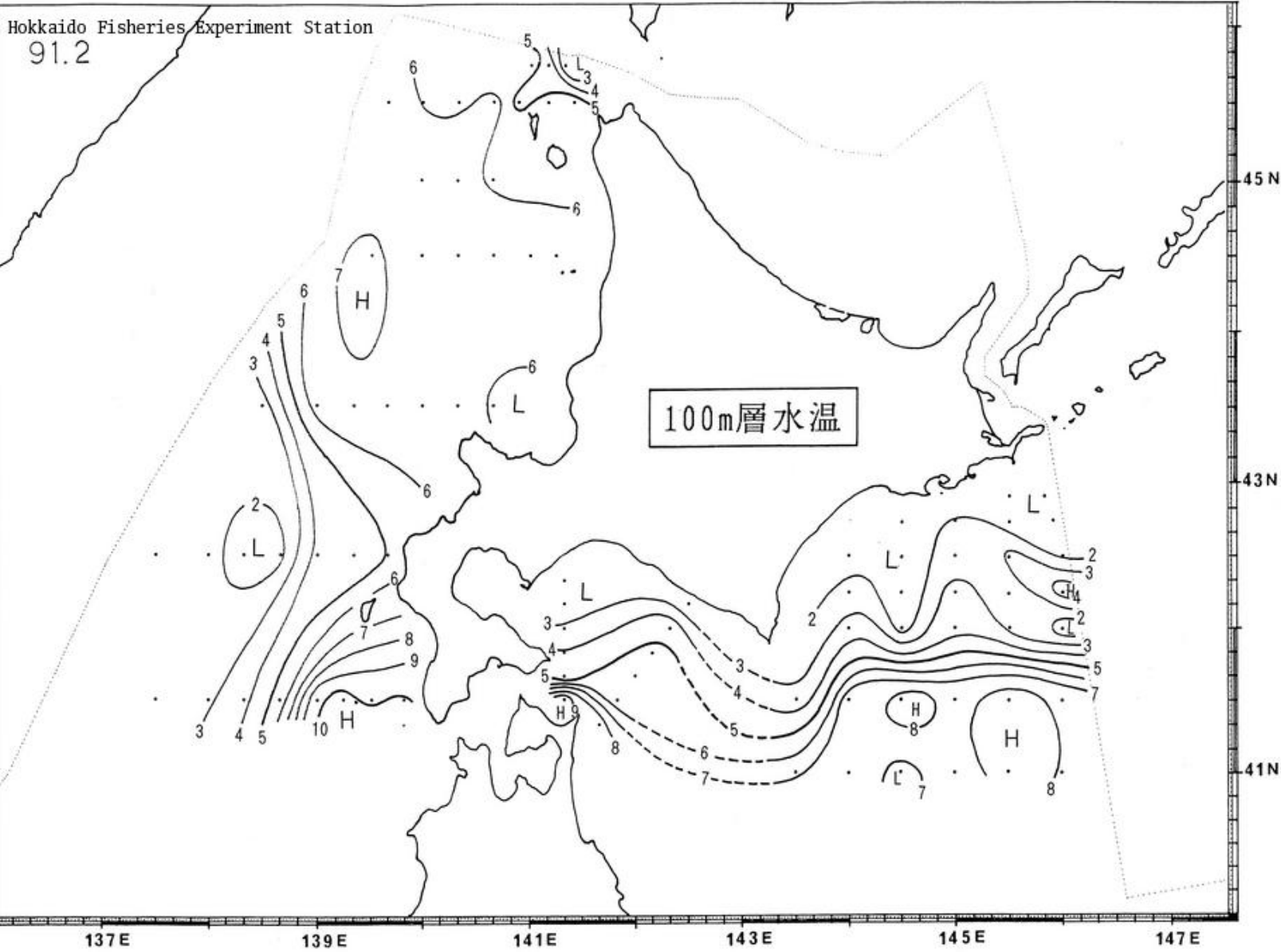


137 E 139 E 141 E 143 E 145 E 147 E

45 N
43 N
41 N

Hokkaido Fisheries Experiment Station
91.2

100m層水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station
91.2

200m層水温

